



# てらる



2021年  
5月  
No.881

■発行所 ■  
日本福音ルーテル教会事務局広報室  
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1  
電話 03-3260-8631

■ウェブサイト ■ <https://jelc.or.jp/>

■E-mail ■ [jelc@jelc.or.jp](mailto:jelc@jelc.or.jp)

■発行人 ■ 李明生 koho@jelc.or.jp

■印刷人 ■ 精文堂印刷株式会社

■定価 ■ 1部 40円(郵税を含む)

■振替口座 ■ 00190-7-71734

## 説教「喜び祝う神」

日本福音ルーテル藤が丘教会牧師 佐藤和宏

「どうか、主の栄光がとこしえに続くように。／主が御自分の業を喜び祝われるように。」  
(詩編104編31節)

各個教会規則(雛型)第3条には、教会の目的が次のように規定されています。

「この教会は、キリストの命に従って、信仰の交わりをなし、福音の宣べ伝え、みことばを教え、愛による奉仕をなし、これらることによって神に仕えることを目的とする。」

教会はキリストの命じられたことに従って、伝道をし、教え、人々に奉仕をするのですが、それらはすべて神に仕えるためである、というのです。私はこの「教会の目的」の大切さを共有するため、毎年教会宣教計画の冒頭に、前提として明記することにしてあります。教会が教会であるために、その目的を見誤ってはならないと思うからです。

教会の宣教と聞くと、私たちが人数や財政といった結果に目を奪われてしまうことがあります。いかに人が増えたか、経済的にどうかなど、これらを宣教の成果としてしまふのです。しかし大切なことは、目的なのだと

思うのです。私たちのなす業がいかに乏しく、成果がみえなくとも、それが神に仕えるとの目的に沿う限り、それは尊いのです。反対に、私たちのなす業がどれほど効果的にみえ、人の目に輝いて映つたとしても、神に仕えることを忘れていなければ、それは虚しいのです。いずれにしても、私たちが先の教会の目的から知らなければならぬのは、教会は内に向かうものではなく、外に向けて働くもの

であるということです。すべての人々に仕えることを通して、神に仕える。これが教会なのではないでしょうか。

聖霊降臨を指して「教会の誕生日」と言われることがありますが、それは聖霊降臨の場面(使徒言行録2章)に、教会が教会であるために欠かせない要素が示されているから

にちがいません。それは「二同が一つになって集まる(1節)」、「霊(霊が一人一人の上にとどまる(3節)」、「霊が語らせる(4節)」の三つです。「霊が語らせるままに：話し出す(4節)」というのですが、宣教は人から出るものではなく、聖霊によることと

です。たとえ無力に思われても、聖霊が語らせるままに話し出す、これが教会なのです。そしてそのために、「(霊が)一人一人の上にとどまった」のでした。それは一人一人の違った個性が、それぞれに大切にされているというこ



とです。聖霊によって、その一人一人を通して宣教が

なされる。これが教会なのです。「二同が一つになって集まる」ということについてです。礼拝に集められる私たちは決して同じではなく、違う考えを持つた者の集まりですから、違いを認め合い、赦し合いながら集まっていると言えるでしょう。これが一つになるということと

は、牧師によっても、役員会によってもなく、ただキリストの名のもとに、違いを尊び、一つとされるのです。そしてこの「二つになる」とは、各個教会にとどまらず、ルーテル教会全体についても、同じように言えるでしょう。ルーテル教会は一つの教会であるのですが、どうしても目に見える各個教会のこと

を思いつつ、一つになれる。これがルーテル教会なのだと思えます。

「改訂共通聖書日課(RCL)」によると、ペンテコステには詩編104編24節以下が選ばれています。31節に「どうか、主の栄光がとこしえに続くように。／主が御自分の業を喜び祝われるように」とあり

ました。「主が御自分の業を喜び祝われるように」とは、御自分の業である私たちを含めたすべての被造物を喜び祝われるということなのでしょう。「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。」(創世記1章31節)という場面を思い出します。

私たちが神に喜び祝われるようになるのは、私たちの努力によるのではなく、私たちが役に立つからでもあります。ただ、私たちがキリストの名のもとに、違いを認め合つて一つとされ、植えられたそれぞれ

の地において、ただ神に仕えるために人々に向かつて、宣教の業に励むようにと、聖霊が注がれたことによるのです。すべて神の御業によって、私たちは教会とされて生きるのです。神はそのような私たちを、ご自分の業として、喜び祝われるのです。



「命のことば」  
伊藤奈奈

おられ、昨年のコラムでも登場されておられます。生きるって何でしょう。息を吸うこと、笑ったり泣いたり怒ったりすること、歩くこと、空気が無くなつたら生きられない。喜怒哀楽の感情は運動能力は私と同じ病気がわかつたばかりの方が自分で歩けなければ人間じゃないって言っていたことを思い出します。生きるということ

と人間であるということも違うような気がします。この病気がいいとかあの病気が嫌とか、あの姿はいいけどこれはダメとか、それらは体誰が決めるのでしょうか。こんな言葉も聞いたことがあります。生きていけばいいのよ。自分の家族がほとんど何も食べられなくなり、眠つておられることが多い方のことを言っておられました。神様にとっては、あなたは家族。そのまま生きていていいんだよ」と言われます。

「この子生きてるのよ。この呼吸器止めたら死んでしまうの。」  
生きるって何だろう。そんなことを考えさせられました。この言葉を母さんから聞いたのは私もその人も入院している時でした。その人に初めてお会いした入院から3カ月で車椅子に乗っておられた状態からあつという間にベッドに寝たきりになり、呼吸器をつけないと息ができなくなりました。  
その人は今、隣で話して



MILDORFER, Joseph Ignaz Pentecost 1750s Magyar Nemzeti Galéria, Budapest

全国ルーテル青年オンライン合宿

**No Youth. No Church**

2021/02/26~27

詳しくは4面で

全国ルーテル青年オンライン合宿報告



議長室から 大塚 謙治

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。」(ヨハネ福音書3・8)

蔵が描かれたことがありました(原作・吉川英治 2003年NHK)。史実かフィクションかは定かではありませんが、私には忘れられない一場面があります。若い頃の彼は大変な狼藉者で、有り余るエネ

の敗北。茫然自失した武蔵に石舟斎はこう問うのです。「お前は風のそよぎを感じたか。鳥の声、せせらぎの音が聞こえたか。武蔵はハッとします。言われてみれば確かに周囲には風がそよぎ、土が香り、

へのコペルニクスの転換を促す声でした。そこから彼はやがて「剣聖」と呼ばれる至高の歩みを成し遂げてゆくことになりました。このエピソードは私たちに、内に閉ざされた自己完結的な生を超えた外に向かつて開かれた対話的な生の次元を教

周囲が見えなくなることで少なくありません。そのような時には五感を開いて周囲の世界を感じてみる。するとそれまでとは違った視点が与えられ、見えなかつた次元が見えてくること

ルギーを持て余し、「武者修行」と称しては道場破りを繰り返している。ある時は藤田まこと演ずる新陰流・柳生石舟斎の道場を訪ねます。相手に果敢に挑みかかつてはゆくものの素手の石舟斎に全く敵わず、完膚なきまで

鳥の声や水の音がしている。しかし自分は相手を打ち負かすことばかり考えていて、外界で起こっていることを何も感じていなかったことに気づく。それは打ち砕かれた武蔵にとつてモノローグ的な生からダイアローグ的な生

20世紀中葉に行われた第二バチカン公会議でカトリック教会は、信徒が聖書により親しめるようにとミサの大改革を行い、旧約使徒書、福音書の三つの聖書朗読からなる「3年周期聖書日課」が誕生しました。3年周期とは共観福音書(マタイ、マルコ、ルカ福音書)を毎年ひとつずつ繰り返して読むためのサイクルです。

たが、Cと比べると三つの聖書テキストがより関連づけられているのを、説教しながら感じています。聖書日課があることで、キリストの生涯を一年かけて追体験できます。礼拝で朗読される毎週のみことばが系統的につながっているの、みことばを聴きながら神の救いの歴史を辿ることが出来ます。また世界各地の主要教派がRCLを採用していること

「教会讃美歌 増補」解説



①讃美歌委員からの声(6)

日本ルーテル教会 教会讃美歌委員

井上栄子 (戸塚ルーテル教会)

「新しい賛美歌を歌えて楽しいですよ」「仕上げの段階なので一年弱しかないが、一緒にやりませんか?」というお誘いでした。私にできる事があるなら、と気軽にメンバーに加えていただきました。しかし、予想外の大役に慄

き、末席を汚しながら4年(2021年3月末現在)が経ちました。作業も第五稿に迫り着き、次回出版社からデータではなく、冊子として整った形で、第六稿の校正が出来ると運びとなりました。

私の入会時、既に試用版(パイロット)版が活用されておりました。が、継続的作業として、候補として挙げられていた230余りの曲を分類別に再度整理し、原譜、原歌詞、伴奏譜の資料を集め、作曲家、作詞者の情報、引用聖句を調べました。日本語以外の詩は音符の数に

合わせて日本語に訳し(この作業に相当な時間を費やしました)、伴奏譜の無い曲には伴奏を作曲し、現代曲にはコードを付けました。原稿が出来上がつて、レイアウトの細部に気を配り(音符の棒や付点の方向や位置、歌詞の誤字脱字、フォントなどのバランス)、赤ペンで紙面を真っ赤に染めた校正作業を繰り返して現在に至ります。

主は、牧会の業のみならず、その他多くの賜物を委員に備えてくださいました。辞書要らずの外国語堪能者、讃美歌編集経験者、作編曲のプロ、P神に感謝します。

私たちの礼拝

式文ハンドブック

⑩聖書日課

浅野直樹 Sr. (市ヶ谷・スオミ教会牧師)

聖書朗読は礼拝において欠かせませんが、どの箇所を讀んで礼拝すればよ

間もなく完成するこの増補分冊1に、どうぞご期待下さい。これが用いられ、皆様と共に声を合わせて主の栄光と感謝を賛美できます日を、心より待ち望みます。

いのか、毎週の礼拝でどういう順番で読み進めたいのかという悩みは、教会が誕生した初期からありました。そこで朗読箇所を配分して利用するための方法として、聖書日課が考案されました。次章的に偏らず、神の言葉全体を年間を通して満遍なく聴けるようにと工夫した結果が聖書日課だといえます。旧約聖書しか

その後も改訂作業は続き1992年、北米15教会の合同作業で、「改訂共通聖書日課 (Revised Common Lectionary, 略してRCL)」が完成し、今日多くの主要教派がこれを用いています。私たちの教会でも2020年から教会手帳に正規採用され、礼拝での利用が広がりました。筆者の教会でも昨年より利用を開始しまし

たが、Cと比べると三つの聖書テキストがより関連づけられているのを、説教しながら感じています。聖書日課があることで、キリストの生涯を一年かけて追体験できます。礼拝で朗読される毎週のみことばが系統的につながっているの、みことばを聴きながら神の救いの歴史を辿ることが出来ます。また世界各地の主要教派がRCLを採用していること

2021年度のルーテル学院大学・日本ルーテル神学校は、ルーテル学院大学総合人間学部01名(編入生を含む)、大学院7名(編入生を含む)4名の新生を迎えてスタートしました。神学校の牧師養成コースの新生は眞我純さん(JELC三鷹教会)、ネルソン・デービッドさん(JELC本郷教会)、大和友子さん(JELC大岡山教会)の3名です。また神学一般コースに1名の新生を迎えました。4月2日(日)には、河田慶太郎(神学校入学者)と対面を組む面の間オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド方式によって行われます。(本報室)

# パンデミックの中のダイヤモンド



## 社会福祉法人サマリヤ

理事長 兼 間道子

(高松教会)

調査団や専門職が入り、しばらくは物々しい状況でした。が、現在は終息しています。

「学び」は職員一丸となつて足並み揃えて取り組まなければ成果は望めません。当法人でも、同様にできる、限りを尽くして対策に邁進しているところですよ。

最近では、動画配信

コロナウイルス第3波到来で感染拡大は止まっています。香川県は陽性患者が徐々に増え12月9日には警戒レベルに引き上げられま

した。なかでも高松市内では介護施設でクラスターが発生し、感染者は利用者や職員を合わせて150人を超え、香川県、高松市そして国から

介護施設では、医療機関とほぼ同等に感染対策(予防)が求められます。クラスターが発生すると罹患した患者だけでなく、一緒に暮らす利用者や職員を含めた家族までも一切が機能しなくなりま

す。今後は、さらなるスキルアップのために現場研修に加えて、画面をとおして視聴できるシステムも出回っています、このことも啓発したいと考えています。操作方法がわからない職員にはこれを機会に、分かる職員に尋ねてITに慣れても

「学び」は職員一丸となつて足並み揃えて取り組まなければ成果は望めません。当法人でも、同様にできる、限りを尽くして対策に邁進しているところですよ。

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメールメッセージで多くの励まし言葉を送ってくださっています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメールメッセージで多くの励まし言葉を送ってくださっています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメールメッセージで多くの励まし言葉を送ってくださっています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。

「信仰を共にする兄弟姉妹の皆さんに対して、まずもって感謝を申し上げたいと思います。手紙やメールメッセージで多くの励まし言葉を送ってくださっています。祈りに覚えていただき感謝します。いずれもとても大切なひとつひとつです。

## 世界の教会の声

浅野直樹 Sr.

(世界宣教主事)

市ヶ谷・スオミ教会(牧師)

ベラルーシの牧師、支援と祈りに感謝②

「教会と政権との関係について現状はどうですか。」



タタニヤコフ牧師 (LWF インターネットサイトより)

「グロドノ市長とは今のところ良好です。しかしながら国レベルで様々な障害があり、たとえば私たちの教会は小さすぎると、法的には教会として認められていません。そのため海外か

「大半の信徒はベラルーシ国籍の人たちで、宗教改革に関心をもつ人々がルーテル教会に集まっています。ドイツ、エストニア、フィンランドのルーテル教会もあり

「大半の信徒はベラルーシ国籍の人たちで、宗教改革に関心をもつ人々がルーテル教会に集まっています。ドイツ、エストニア、フィンランドのルーテル教会もあり

「大半の信徒はベラルーシ国籍の人たちで、宗教改革に関心をもつ人々がルーテル教会に集まっています。ドイツ、エストニア、フィンランドのルーテル教会もあり

「大半の信徒はベラルーシ国籍の人たちで、宗教改革に関心をもつ人々がルーテル教会に集まっています。ドイツ、エストニア、フィンランドのルーテル教会もあり

「大半の信徒はベラルーシ国籍の人たちで、宗教改革に関心をもつ人々がルーテル教会に集まっています。ドイツ、エストニア、フィンランドのルーテル教会もあり

世界ルーテル連盟(LWF)がベラルーシのウラディミール・タタニコフ牧師にインタビューした記事(2021年1月15日公開)の後半を紹介いたします。

「元の記事のURL」  
<https://www.lutheranworld.org/news/belaruspastor-grat-solidarity-and-prayers>



新型コロナで、ルターから学ぶ—『ルター研究』17巻(特集・宗教改革と疫病)紹介

江口再起 (ルター研究所 所長)

「ルター研究」17巻(特集・宗教改革と疫病)を紹介。内容は決して難しいものではない。しかし、大変、正確でわかりやすい訳文になっています。

「ルター研究」17巻(特集・宗教改革と疫病)を紹介。内容は決して難しいものではない。しかし、大変、正確でわかりやすい訳文になっています。

「ルター研究」17巻(特集・宗教改革と疫病)を紹介。内容は決して難しいものではない。しかし、大変、正確でわかりやすい訳文になっています。

「ルター研究」17巻(特集・宗教改革と疫病)を紹介。内容は決して難しいものではない。しかし、大変、正確でわかりやすい訳文になっています。

「ルター研究」17巻(特集・宗教改革と疫病)を紹介。内容は決して難しいものではない。しかし、大変、正確でわかりやすい訳文になっています。



ルター研究 17巻 (特集・宗教改革と疫病) 紹介  
送料: 定価2千円+送料

# 第7次総合方略の紹介(1)

事務局長 滝田浩之

第13回常議員会において、2022年に提案される「第7次総合方略」についてご紹介をしたいと思います。

これまで総合方略は、委員会が草案をまとめ、教区常議員会、本教会常議員会において整理されて総会に提案され

るといふ段取りで承認されて実行されてきました。組織としては間違っていない手続きだと思えます。

しかし、私たちは今、COVID-19を経験し、キリスト教の歴史上、ある意味では初めての隣人のために公開の礼拝を閉じるという経験をしています。このような経験をしている教会として、総会に提案する前に広く、会員の方に、この内容を周知し、そして意見や思いを分かち合う時間を取ることは有意義なことだと考えます。しばらく「るうてる誌」の紙面をお借りして、その内容についてご紹介して参ります。

はじめに 本文・歴史的背景・過去の方策(第1次〜第6次まで)

戦後のキリスト教ブームの時代は、いずれの教会の礼拝堂も人があふれていた。日本福音ルーテル教会も同様である。その時代に信仰をもった方々の献身的な働き、献財によつて今日の教会の基礎が出来たと云つて過言ではない。

1969年のアスマラ宣言によつて、私たちの教会は第一予算(個々の教会の財政)の自給に舵を切つた。第1次から第4次までこれを実現するために「総体としての自立」を求めて総合方略が立てられた。この「総体としての自立」は、戦争を経験した教会がそうであつたように「生き残ればよい」というサバイバルではなく、「二つの教会として総体として自立して宣教することを選び取つた。この方策は、日本経済が右肩上がりである進む社会背景に支えられて、特別協力金制度を生み出しながら、教区自給を実現する。

しかし教会の経済的自給については、ある一定の結果を出しつつ、個々の教会の教勢は思うような成長を果たすことができなかった。そのため第5次にあたる方策「パワーミッション21」は、その目的を明確に個々の教会の教勢の右肩上がりを目指すべく、資産を宣教活動に、いわば本教会に集中し個々の教会の宣教の梃入れを目指した。

だが、この資産注力を支えてきた海外の教会は2003年、協力教会とのスタンス(姿勢・立場)を歴史的に大きく転換した。それは支援から同伴する関係への変化であつた。これにより、すべての会計において海外からの支援は終結し、日本福音ルーテル教会は、ある意味ではすべての面において自給を余儀なくされることとなつた。

第5次総合方略の後半から、教会は資金投下による本教会主導の宣教活動の活性化を目指すという方針から転換し、経済的自給を持続的なものにするために本教会宣教活動のプログラム化、年金制度の改革を実施することとなつた。第6次総合方略は第5次総合方略の重要な課題は継承しつつ、特に宗教改革500年事業を中心に様々な取

り組みを実施し、ルーテル教会のアイデンティティー(主体性)を改めて確認する役割を果たした。本総合方略は、この「歴史的背景」を踏まえつつ経済的自給から、一歩進めて、宣教的自立を目指すものである。

## 解説

日本福音ルーテル教会は、その教会の自立と自給という決意をした後、第1〜6次まで総合方略を策定してきました。その時代、その時代に必要な課題を確認してきたのです。

ここで重要なことは、「第7次総合方略」はこの歴史の上に立っているという事実です。そして見失つてはならないのは、私たちは福音宣教に絶望してはいないということです。

み言葉の説教と聖礼典の執行という、イエスの使命に立つ教会であることを誇りに思い、この使命を引継ぎ果たしたいと考えています。

この使命を果たすために、今必要なことは何か、これを分かち合うことに総合方略の意義があるのです。

## 社会委員会「入管法改悪を考える緊急学習会」報告

小泉基 (社会委員会委員長・函館教会牧師)

4月6日、社会委員会主催の「入管法改悪を考える緊急学習会」が、委員会主催の学習会として、はじめてオンラインで開催されました。出入国管理法の改訂案は、

今年の2月に閣議決定され、4月に審議入りするといわれています。この改訂案では、それが3回目以上であれば、難民申請を行っていない最中であつても強制送還を可能にし、母国に帰国できない事情を抱えている外国人住民に、強制送還拒否罪を新設するなど、日本で暮らす弱い立場の外国人住民を困窮させ、その希望を打ち砕く内容になっていきます。委員会では

は、マイノリティー宣教センターなどが呼びかけた「難民申請者を追放する『出入国管理及び難民認定法』の改悪に反対する教会共同声明」に委員として賛同するなど、教派を越えた反対運動につながってきましたが、法案自体についてもさらなる理解を深めようと、この度緊急に学習会を企画しました。学習会では、入管施設の問題性を問うテレビドキュメンタリーをみんな

で視聴した後、改訂案の問題点を学び、それぞれが置かれた立場からの感想を出しあつて意見交換をしました。さらに学びを深めたいという参加者の声にこたえて、委員会では5月中にも2回目の学習会を計画しています。今回は、緊急開催出来ないままでしたが、次回はいよいよ少くもの人に参加していただけるよう、丁寧な呼びかけを行つていきたいと思ひます。

## 青年の責任による青年のための全ルーテル青年オンライン合宿が開催されました!

森樹市々教区

全国のルーテル教会に集う35歳以下の青年を対象とした青年合宿が、2021年2月26〜27日にオンラインにて開催され、全教区から、また国を超えて、さらには教派も超えて、総勢50名が参加しました。

この合宿を通して、青年が神様との関係を振り返り、教会活動により「層」つながりかけとなれば幸いです。以下、参加者からの感想を掲載致します。

コロナ禍により、様々な事を見つめ直す機会を神様から与えられたのかも知れないと感じています。その中の一つが今回の合宿のテーマである教会でした。強制的に人と人との繋がりが切り離されているこの状況だからこそ、教会に普通に通い、祈りを共にすることが、どれ程の恵みであつたのか、また、普通に集まっていたときから、人と人との心の繋がりが、また神様との繋がりが、私たちの中で知らず知らずのうちに薄れていたのかもしれないというのを再確認する機会となりました。合宿を通して「教会」とは「神様と自分

の繋がりがであり、そこから自分と他者との繋がりの中へ向かうこと」だと私は考えました。自らの信仰、これからの行動を見つめるべき交わり、学びの場となりました。箱崎教会 深野創太

私は今回初めて全国の教会青年との関わりを持ちました。参加前は、教会に通う日教もキリスト教への知識も少なく、話についていけないのが不安でした。しかし、そんな私をみんなは暖かく迎え入れて、教会やキリスト教について、わからないことがあればその都度説明してくれました。また、教会についての話だけではなく、それぞれの日常についても分かち合え、とても有意義な2日間でした。ここで出会えた青年達との関係を終わらせたくない、こ

ろからこの繋がりを大切にしていきたいです。神水教会 下村翔吾

私にとって今回の合宿は、普段接点のないルーテルの青年達と交わる凄く貴重な体験でした。教派は違えども、それと関係なしに色々なことが学べてよかったです。私は小さい頃から教会学校に通っていたため、幼なじみがたくさんいたため、幼なじみたちと一緒に、教会の人達もみんな仲良くしてくれそうです。今回の合宿を通して、そんな人達を改めて大事にしたい、と思ひました。また今回のような機会があればまた参加してみたいと思ひます。(日本基督教団 五軒邸教会 木原有恵)

合宿のテーマは「No Youth No Church」。「青年」と「教会」をテーマに、1日目は石居基夫先生をお招きし聖書が語る教会やその歴史、またルーターの教義論についてお話しして頂き、2日目は社会で活躍される信徒の方をお迎えし、「社会、働きながら教会に つながること」について証をし

た。この使命を引継ぎ果たしたいと考えています。

この使命を果たすために、今必要なことは何か、これを分かち合うことに総合方略の意義があるのです。

この使命を果たすために、今必要なことは何か、これを分かち合うことに総合方略の意義があるのです。